

授業改善等に関する報告書（2024年前期）

授業アンケートへのフィードバック

平成 28 年度より、学内で使用されている LMS (Lerning Management System) manaba 上で学生が回答した授業アンケート内容に対し、教員がコメントする形式を採っている。

次ページ以下に、それらの「授業アンケートへのフィードバック」をまとめて掲載し、授業改善等に関する報告とする。

【2024（前期）現代生活学科】授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
グレートブックスセミナー 1	犬塚 潤一郎	哲学のテキストの内容を理解し、自分の考えを論理的に表現し、また討論することは、だれにとっても容易なことではありません。またその時間を現実の生活の中に持ち込むことに、抵抗がある環境もあるでしょう。しかしそれをご自身の努力で築いてゆくことに、大きな意味があると考えられます。頑張ってください。
グレートブックスセミナー 1	犬塚 潤一郎	テキストの内の論理を理解することは、自分の内を変化させることでもあります。知的な意味でより複雑な「私」の内面形成を、これから進めてください。
グレートブックスセミナー 2 b	犬塚 潤一郎	テキストを読む時間の面白さ。それを持つことのできるご自身の能力を一層発展させられますように。
ゼミナール	河井 延晃	本授業は、3年生ゼミの前期科目となります。 前期は、基礎的な文献批評の方法と報告、さらに後期のPBL（生成AI、LLMの新規サービス、製品企画）の開始や、学内データベース講習会等さまざまな内容でした。 ゼミでも説明しましたが、通年科目となりますので、その点改めてご留意ください。 さて、本授業アンケートの結果を見ると、「さらにこの科目を学びたいか」が5、「総合的に満足したか」も5となっており、そのほかの評価も高いものと言えます。 ただし、私自身の改善点として挙げる点がこのアンケートから一つあり、明確に読み取ることができることも事実です。評価平均4を下回った唯一の項目として「自分の成績をつけるとしたら（学生の自己評価）」という項目です。 謙虚さのあらわれかもしれませんが、これは私のフォローや説明が不足していたと言えます、本授業のピークはあくまで後期の10、11月に行う、企業連携PBLに向かうもので、テキスト批評やデータベース検索も含めてこれに集約されてゆきます。 毎週の個々の作業や発表はもしかすると不完全燃焼で、上記のような評価だったのかもしれませんが、これは安心して下さい（キャッチボールや組合練習のようなものです）。また、毎週出席している限り、取り残して行くことは絶対ありませんし、本年度のPBLで招聘している人工知能開発企業の先生も皆さんのことを評価されています。 私も、本年度のゼミは最初戸惑ったのも事実ですが、これほどの多様性を持ったゼミは学内でも稀有で、今はとても好きなゼミです。 何より自信を持って後期ゼミは頑張って、学生同士で自由闊達に議論し、助け合って行けるようにしたいと思います。あくまで授業評価自体は高い評価をいただきましたが、改善してほしいことは個別に伝えていただいて構いません（私の後悔としては、ゼミイベントをコーディネートできなかった点です）。
ゼミナール	行実 洋一	ゼミですので、指摘された教員の話し方や音量はなかなか改善が難しいですが、今後留意するようにします。また成長実感が伴えるよう努力したいと思います。
ゼミナール	須賀 由紀子	後期もいろいろと取り組んでいきましょう。
ゼミナール	犬塚 潤一郎	何かを始めるための、基礎的な道具立てをそろえる時期です。これから、ちょっとしたものを作り上げる、トライアルに進みましょう。
ゼミナール	倉持 一	全般的に評価は高く、ゼミナールの活動は途上であるが、問題ないことが確認できた。
ビジネス特論 b（地域ビジネス）	倉持 一	授業のわかりやすさや理解度の評価は良好であり、授業の目的は十分に達成されたと考えている。
映像制作演習 a	犬塚 潤一郎	動画制作は、グラフィック、写真、声、音楽、動画等のマルチメディア作品作りですが、そのすべての要素に、LLM技術によるAIがかかわる段階を迎えました。AIによる生成機能は、人の創造力への新たな問いとなっています。実際にそれを経験する機会となりましたね。

【2024（前期）現代生活学科】授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
フィールドリサーチ a	上野 亮	配布資料や説明の分かりやすさ、授業に対する満足度では十分な評価を得たと認識しております。成長を実感したことの回答では、資料作成の力が身に着いた、データを読み解く力が身に着いたといった内容も多く、本授業の目的は達成出来たと考えています。 本授業は1年生を対象とした授業のため、今後4年間通学することになる地域への理解を深めてもらう意味でも、日野キャンパスのある日野市やその近隣市をケーススタディとしました。本学のある地域であり、日野キャンパスに通学する皆さんには、どのような地域なのか、理解を深めて欲しい地域でもあるため、データから見た地域の実情を理解出来たことには大きな意味があると思います。 また、本授業で学修してきた、定量的なデータに基づく分析、それを補足するための文献調査、調査内容に関する効果的な報告（プレゼンテーション）方法といったことは、様々な場面で必要な能力になりますし、社会に出てからも役に立つ技能です。本授業で学修してきた成果に関しては、ぜひ、他の授業を含め、今後活かしてください。
フィールドリサーチ b	浪崎 直子	本授業では、全14回の授業全てにおいてグループワークを取り入れ、学生同志の学び合いを重視したアクティブラーニングを実施しました。授業の回数を重ねることに受講生が積極的になり、受講生の皆さんの学が意欲に私が圧倒されるほどとなりました。 授業アンケートでは、すべての項目において全体平均を大きく上回る結果となり、本授業の目的を十分に達成できたと考えています。特に、受講生から「今まで授業受けた中で一番楽しい授業でした。初めて自分から学びたいと思いました」、「仲間と協力して調査計画を立て実施する楽しさや楽しさなどを実感することができた」、「とても楽しく、できればもっと受けたいなど感じるほどに環境への関心がより上がった」とコメントいただいたことは、大きな励みになりました。 「もう少しペーパーレスになってもいいなと感じた」とのご意見もいただきました。調査で得られたデータをまとめたり、調査の発表をする際はPCを活用するよう心がけた一方で、受講生同士の対話を重視する場面ではPC画面を見るよりも、人の顔を見て話したり、手を動かして模造紙に自由に書き込んだりすることで、対話が促進され教育効果が高まると考え、模造紙や付箋などの紙を使用しました。ただ、毎回グループワークを取り入れたことで、授業の後半は皆さん慣れてきてグループワークの話し合いがスムーズに進んでいました。最後の授業では模造紙を使わずPCを活用したディスカッションもできるかもしれません。今後は受講生のグループワークの状況を見ながら、ペーパーレスも検討していきたいと思っています。
プロジェクト実践演習 a	須賀 由紀子 合原 勝之	本演習で制作したものを、実際にオープンキャンパスで活用することができました。社会とつながりながらのコトづくり・モノづくりを通して、価値創造や「協働する」ことの大切さについて、体得していただける機会となっていれば幸いです。
メディアコミュニケーション a	行実 洋一	全体的に高い満足度が得られましたが、学生により一層の成長実感、充実度が得られるよう、今後とも留意していきたいと思っています。
メディアプロデュース論演習	行実 洋一	今回は講義部分が多くなり、演習として十分な制作時間を割くことができなかった。その点は来年度は学生自身が手を動かし工夫する時間をもう少し増やせるよう計画したい
メディア経営論	犬塚 潤一郎	メディア技術の歴史的展開とともに、現代のLLM-AIの技術的基礎と実践的活用について学びました。特にLLMは登場して間もなく、発展の渦中ですから、技術の本質について考察することは知的興味を掻き立てたことと思います。
メディア社会概論	行実 洋一	全体的に高い満足度が得られましたが、学生により成長実感が感じられように留意していきたいと思っています。
ライフ・プランニング	犬塚 潤一郎	現代は文明の転換期とみられます。この時代のただなかを生きる若い方々は、容易でない未来を迎えることになります。未知のものをできるだけ理解し、正當に対応しようとする、姿勢と基礎能力を、大学時代に築かれますように。
家庭経営 a（食生活）	奈良 典子	貴重なご意見誠に有難うございます。今後も皆さんの学びにつながるように努めます。

【2024（前期）現代生活学科】授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
応用メディア技術	河井 延晃	本授業はコロナ以降の対面での本格的な実習室での授業となります。本年度は、本授業内で（基礎から）応用まで、メディア制作（企画、制作）を行う内容でした。したがって、やや授業内で扱う内容が多かったのも事実です。 決して、手ぶらで毎週出席していれば良いわけではないので、教員だけでなく学生の皆さんの取り組み意欲も求められる内容でした。 「総合的な満足度平均」が5、「さらに学びたいと思いましたか」5となっていますが、「この授業で意欲的に取り組んだか」も5となっており、授業の内容もさることながら、学生各自のやる気に支えられた授業であるとも言えたのではないのでしょうか。 あえて改善点をアンケートから読み取ると、授業のスピードとシラバス内容との一致がそれぞれ4.3台となっております。決して低くないものの、授業スピードはメリハリをつけて行うことは可能であると考えます。 特に今年は学生間の進捗の差もやや大きかったように思いますので、その辺りの個別対応時間を設けると授業改善になるのではないかと思います。 いずれにせよ、高い意識を持った学生に支えられた（やや欲張りな内容の）授業だったと思いますが、お疲れ様でした。 追記：皆様の課題での企画や調査「内容」は私自身見たことのなかったものも多く、発表会は興味深い内容もありました。
環境マーケティング論 a	犬塚 潤一郎	経験の一般化・理論化＋行動科学という商業活動の技術に加えて、環境制約という、市場そのものを成立させている基礎についての認識と対応能力が、産業・行政に求められています。次は応用的領域の研究に進んでください。
環境マーケティング論 b	倉持 一	説明のわかりやすさやスピードなど、授業の進行に関する評価も十分であり、授業内容の理解や満足も概ね良好であった。この科目は現代企業の環境マーケティングのリアルな場面を取り上げているので難しい内容であるが、履修者は努力していた。
環境科学概論	佐藤 秀樹	授業アンケートへのご記入を頂き、誠にありがとうございました。頂いた内容につきましては、今後の授業運営の参考させていただきます。
環境経済学	倉持 一	授業に対する理解度や満足度は概ね良好な評価を得たと考えている。受講生の皆さんの協力により、静肅性が保たれ、学びたい学生の後押しができたと考えている。
環境思想 b	犬塚 潤一郎	西洋の倫理学の展開のうえで、環境倫理を位置づけ、理解する。容易ではありませんが、そのような思考の習熟のもとに、環境問題をとらえてゆくように、今後を期待しています。
現代社会を読み解く a（政治と経済）	倉持 一	説明のわかりやすさや授業理解度の評価は概ね良好であり、授業の目的は達成できたものと考えます。
現代社会を読み解く b（生活と産業）	倉持 須賀 由紀子	複数教員による科目の特徴が出ており、コメント欄でも前半と後半の両方に対する評価が行われていたことで、授業の狙いは十分に達成されたと考えます。
自立生活論 a（健康）	須賀 由紀子	この授業で得たものの見方は、とても実践的なことなので、ぜひ、みなさんの実際の生活の中に取り入れていただけたら嬉しいです。また、スポーツや自然を取り入れた暮らしに興味を持ち続けていただければと思います。
自立生活論 b（消費者）	倉持 一	授業に対する意欲、満足、理解度など、授業の主要な部分での評価は高く、授業目的は達成できたと考えている。
女性社会論 a	須賀 由紀子 行実 洋一	この授業で得たものの見方を、貴女自身の生き方に活かしていただけたら嬉しいです。新しい時代の女性と社会について、意識を持ち続けていただけたら幸いです。
少子高齢化社会	須賀 由紀子	この授業で得たものの見方を、ぜひ、これからの持続可能な地域社会づくりに活かしていただければ嬉しいです。
生活産業創出論	須賀 由紀子	この授業で身につけたものの見方を、ご自身の身近な暮らしへにぜひ活かしてください。
地域食料論	佐藤 秀樹	授業アンケートへのご記入を頂き、誠にありがとうございました。頂いた内容につきましては、今後の授業運営の参考させていただきます。